

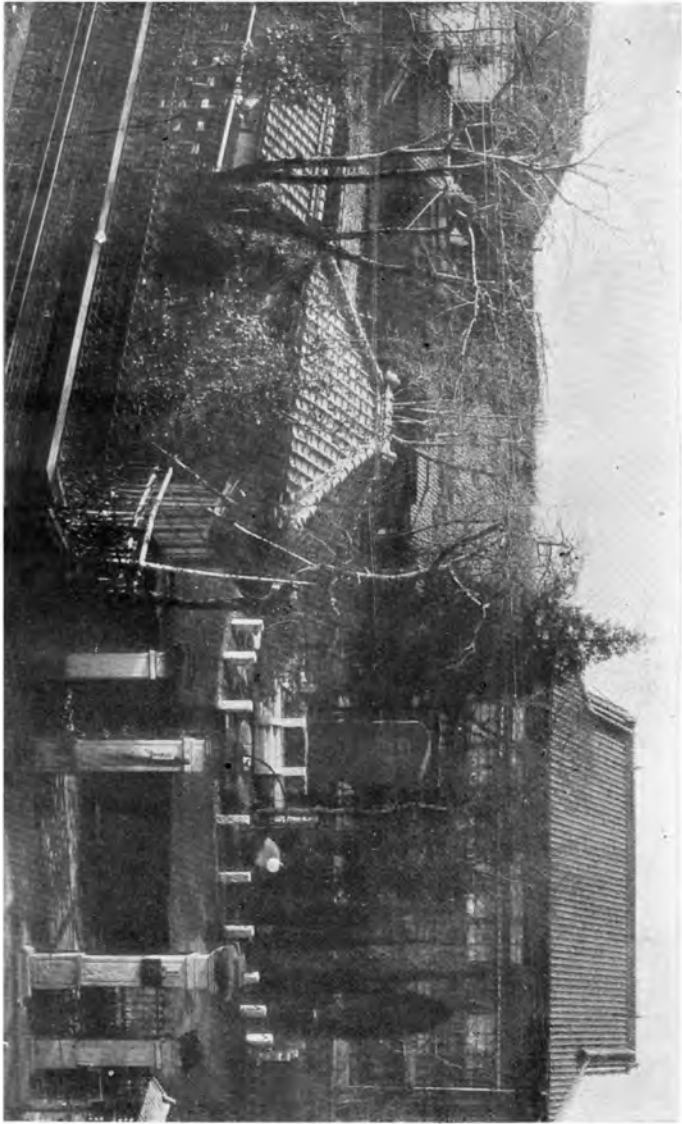
碓氷社五十年史

復刊版

碓氷社五十年史

群馬地域文化振興会

碓氷社五十年史



社 本 社 水 碓



所務事崎高社米確

萩原翁遺範碑

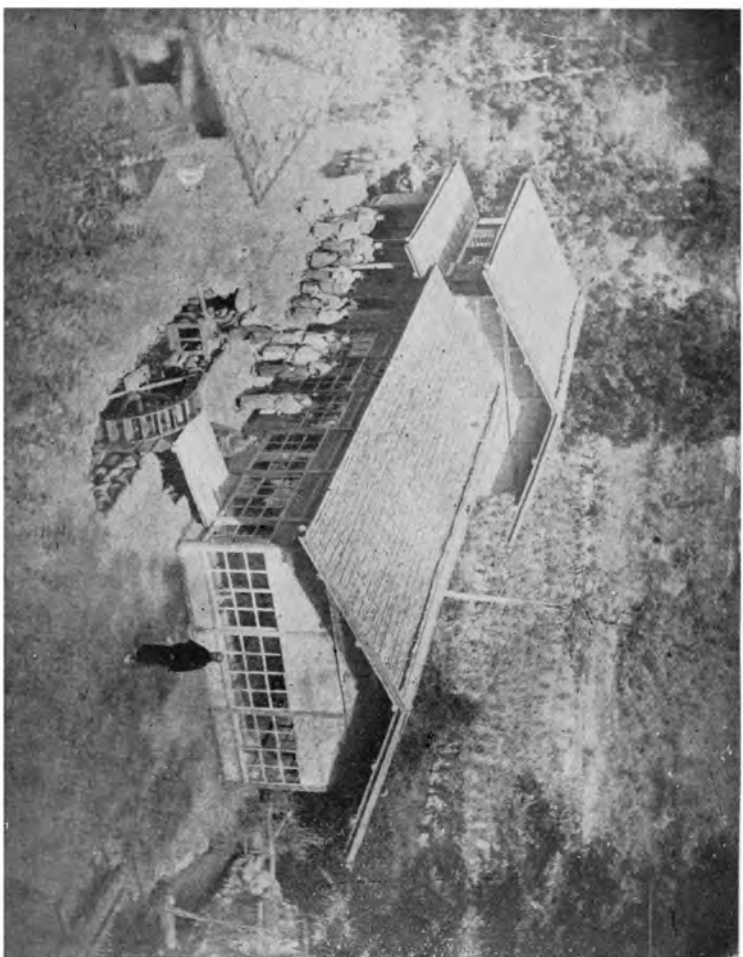
內大臣正二位大勳位侯齋松方正義墓額

倉馬縣確水社以製蠶絲為業精好殊絕聲譽施乎海外而威大至此者萩原翁之力也翁諱鐘太郎萩原氏確水郡磯部村人四郎左衛門第二子為同姓弥左衛門所養年有十六承家襲為里正明治之初舊制廢廢世態一變物情恟恟翁體雖斯大義竭力捐循新制始行還肝煎名主司十三村事歷區長戶長選郡長精心吏治有循良之名三舉為縣會議員又選眾議院議員翁始入議院有所見任滿乃退不復與議政之事我邦蠶絲自古稱精好自與外國通商販路益開絲價弥高而人人窳劣利相尚獎害自此發其端巧機日長絲質益下終失信於海外翁慨奮圖之巨款勸募有志設工場督導勸教頗風大振遂糾結地方業蠶絲者為一大社團所謂確水社是也其後翁以公望為地方所推為社長時允接法始定物價未平一社為之捐傷困敝賴仍觀者望而氣沮翁獨怡然處之教意應變不數年事業一新遂至今日之盛翁功德既多淳裝優獎賜綬綬實章加授飾版特 旨欽正六位翁在確水社凡二十八年忠厚信義以相表率人皆感發趨風以老病身引退四年大正五年七月三十一日歿年七十四嗚呼翁身已逝而遺範長存一社相共銘繼不懈推其美風廣其事業寧有涯量哉此豈惟確水一社之休所禱國家之隆運者蓋大社中人欲立碑以表之請余文乃敘其要事以示後人云

大正八年三月

產業組合中央會頭正三位勳一等法學博士子爵平田東助撰
錦鷄間祇儀從二位勳一等男齋野村素介書

萩原翁遺範碑



明治十一年創業の時碓氷精絲社



前社長 萩原 鐮太郎 翁



前社 萩原茂十郎翁



宮口社長

□ 吾が碓氷社は明治十一年の創立にして、吾が國産業組合法の制定に先つこと二十餘年の往時に於て、吾が國に産業組合を建設したる吾が國産業組合の先驅である

□ 今や組合製絲は全國各地に勃興し、將來益々「發展の機運を有するは、本邦蠶業界の爲めに大に意を強ふするに足る、而して吾が碓氷社は本邦組合製絲の元祖である

□ 社業創立以來茲に五十年、時勢の變化は眞に隔世の感がある、社業は時勢の進運と共に、革新伸展する處が無くてはならぬ、然かも社業の革新は過去五十年

間の歴史と、終始一貫せる主義方針とに立脚するを
要する

□茲に創業五十年に際し、碓氷社五十年史を編纂し、一
は以て過去五十年を紀念すると共に、一は以て社業
改善伸展の指針たらしめんとす

昭和二年三月

目次

第一章	創業	一
第一節	創業當時の蠶絲界	
第二節	確永社の創業	
第二章	社業の眞髓	三一
第三章	組織	七七
第一節	明治十二年の改正	
第二節	社則の變遷	
第三節	産業組合法に依る組織改正	
第四章	製絲方法	一三五
第五章	所屬組合及製絲産額	一四三
第六章	事務所及建物	一六七
第七章	役員	一七七

第八章 社業の改善……………二〇一

一、原料繭の統一改良

二、原料受付の勵行

三、貯繭倉庫及乾繭裝置の獎勵

四、煮繰分業の獎勵

五、社業改善調査會

六、生絲の格上げ

第九章 難事、災厄……………二一三

一、上毛繭絲改良會社負債問題

二、生絲燒失問題

第十章 餘 錄……………二一七

第一、三十年祝典

第二、叙位祝賀式

第三、遺範碑建碑式

碓氷社五十年史

第一章 創業

第一節 創業當時の蠶絲界

碓氷社の創業は明治十一年である、今創業の沿革を述ぶるに當つて、當時に於ける地方蠶絲界の大勢を一瞥するは、社業創立の真相を知るに極めて肝要である

按ずるに蠶絲は往時より本縣著名の産物として、市街と村落とを間はず一般に之に従事し、農家は勿論士族商人に至るまで之を副業とするの情態なりしを以て、其の産出巨額に上りしと雖も、悉く内地の用に供するのみにて、従つて互に徳義を重んじ、其の製品は精良なるものであつた、然るに安政六年一たび横濱開港の擧あるや、生絲は忽にして本邦輸出品中最も歐米人の嗜好する所となり之れが當業者は非常なる巨利を占めた、従來内地の用のみに供せる生絲が俄かに海外輸出品となれるを以て此の機に於て一擧に巨利を博さんとするものあり、加ふるに當時國際的の徳義心未だ幼稚